

複言語パラレルコーパスを用いた仏英語比較研究

— 仏語 *lorsque* (when) 節における文体的倒置に対応する英語表現を中心に —谷口永里子^a 高橋真理子^b^a 京都大学大学院 人間・環境学研究科 taniguchi.eriko.58a@st.kyoto-u.ac.jp^b 関西学院大学 社会学部 takahashi.mariko.76z@kyoto-u.jp

1. はじめに

今日では複数の言語のパラレルコーパスが発達し、言語教育や言語学の研究に大きく寄与している。特に EU (欧州連合) の公文書を中心としてデータベース化した OPUS や Europarl では、40 言語のパラレルコーパスから対訳などを検索することが可能となっているⁱ。さらに Sketch Engine では、それらのコーパスから単語などを抽出、分析することができるようになってきているⁱⁱ。

従来のフランス語と英語の比較研究としては、Guillemin-Flescher(1981)や Vinay&Darbelnet (1995)などがあるが、主に文学作品とその翻訳との比較分析が行われている。フランス語に関する研究では、主に文学作品をデータ化したコーパスである Frantext が使用される傾向がありⁱⁱⁱ、パラレルコーパスの使用は活発ではない。ウェブコーパスが発達する中、フランス語と英語のパラレルコーパスを用いることによって、同じ物事について、各言語でどう表現されるのか比較が可能であり、仏英語比較研究にも応用できる。

フランス語の書き言葉で頻繁に表れる現象の一つに文体的倒置がある。フランス語は SVO 言語であるが、文体的倒置として VS の語順が選択される現象があり、特に書き言葉における従属節中で頻繁に用いられる。通常の SV の語順の場合と文体的倒置の場合とでは、大きな意味的差異はない^{iv}。この文体的倒置に関しては従来、意味・統語的な側面から分析が行われてきた。Bonami&Godard (2001) では目的語が含まれる場合に文体的倒置が容認されない場合があるという統語的制約について分析している。Lahousse (2011) は従属節中の文体的倒置について語用論的分析を行い、倒置された主語は文トピックとして解釈されないという特徴を明らかにしている。Wall (1980) は、従属節中の倒置された主語や動詞の特徴などを記述している。概して、主語の語数が多い、主語が新情報など焦点を担う、動詞が être (*be*), faire (*do*), aller (*go*), avoir (*have*), apparaître (*appear*), dire (*say*), parler (*speak*), donner (*give*) など意味的に軽い動詞であることが文体的倒置の特徴として挙げられている。

このように、従属節中の文体的倒置に関して様々な分析が行われてきたが、それに対応する英語表現に関する詳細な記述は Vinay&Darbelnet (1995) などにも含まれていない。フランス語では文体的倒置を用いて表されている事柄が、英語でどのように表現されているかを分析することによって、フランス語の文体的倒置の性質を明らか

にする余地がある。

本研究では比較的正確に従属節中の倒置の例を収集することが可能な、時を表す従属節の *lorsque* (when) 節中の文体的倒置 (例: *lorsque surgit une guerre (when occurred a war)*) に着目し、英語とのパラレルコーパスや異なるジャンルのコーパスとの比較を通して、量的・質的に分析することを目的とする。

2. データの収集

まず、Sketch Engine でデータの収集を行った。Sketch Engine が提供するフランス語を含むパラレルコーパスには、EUR-Lex、EUROPARL7、OPUS2 などがあるが、ここでは最も語数が多い OPUS2^vを用いることとする。フランス語の *lorsque* 節内が VS の語順となっているものを検索するため、CQL (Corpus Query Language) 検索を使用した。まず、①接続詞 *lorsque* の直後に動詞が置かれ、その次の単語が人称代名詞ではない場合、そして②接続詞 *lorsque* と動詞の間に再帰代名詞や否定辞が介入する場合を検索した。それぞれの CQL は以下の通りである。① [lemma="lorsque"] [tag="VER:pres|VER:impf|VER:simp|VER:futu" & !lemma="1|c"] [!tag="PRO:PER"]、② [lemma="lorsque"] [lemma="ne|se|te|y|en|lui"] [lemma="lorsque"]、[lemma="le|la|les|leur"] [tag="VER:futu|VER:impf|VER:pres|VER:simp"]^{vi}。そして、英語の表現と比較するため、parallel query に OPUS2 English を追加して検索を行った。

その結果として、①で 778 例、②で 191 例が該当した。コーパスの特徴として全く同じ文章が重複して含まれることがあったため、完全に重複する例を除外する作業を行った。また、celui-ci などの代名詞や記号"a"などが動詞とタグ付けされているなど、*lorsque* の内部が VS の語順となっていない例が含まれていたため、それらも除外した。その結果、①と②を合わせて、689 例が *lorsque* + VS の例として認められた。

また、文体的倒置と通常の SV の語順の場合を比較するため、*lorsque* 節内が SV である例を収集した。文体的倒置の場合と同様に、OPUS2 French で OPUS2 English をパラレルコーパスとして [lemma="lorsque"] [tag="DET:ART"] を CQL 検索した結果、41,895 例が該当した。その中から Sketch Engine の Sample 機能を使用し、倒置の場合と同数の 689 例をランダムに抽出したものに関して分析を行った。

3. 分析

前節で収集した *lorsque* 節内で文体的倒置が起きている例 (*lorsque*+VS) と通常の語順である例 (*lorsque*+SV) のデータを用いて、各フランス語の例に対応する英語表現の分析、および、*lorsque*+SV と *lorsque*+VS における動詞の高頻度語彙の調査を行った。

まず収集した *lorsque*+VS の各例に対応する英語表現について、フランス語の *lorsque*+VS の S が担う意味 (指示対象) が、英語ではどこに現れているか、という基準で、次の 5 つに分類した。

【① *lorsque*+VS の S が担う意味が、when SV の S に出現】

- (1) ... *lorsque* commencent les conflits ...
(*when start the conflicts*)^{vii}
- (1)' ... when conflicts start ...^{viii}
- 【② *lorsque*+VS の S が担う意味が、動詞の後の位置に出現】
- (2) ... *lorsque* apparaissent de sérieuses lacunes dans la gouvernance ...
(*when appear some serious lapses in the governance*)
- (2)' ... when there are serious lapses in governance...
- 【③ *lorsque*+VS の S の内容が、when 節の S と外置された前置詞句や関係節に分断】
- (3) ...*lorsque* sont prises des décisions qui ont des effets sur sa vie.
(*when are taken some decisions which have some efforts on his/her life.*)
- (3)' ... when decisions were taken that affected his or her life.
- 【④ 節構造は持たず *lorsque*+VS の VS が表す内容が英語では前置詞句として出現】
- (4) ...*lorsque* survient une catastrophe.
(*when occurs a catastrophe*)
- (4)' ... in times of disaster.
- 【⑤ 以上のいずれにも該当しないもの】
- (5) ... *lorsque* fut annoncée la décision de suspendre définitivement la réalisation de ce projet.
(*when was announced the decision to suspend definitely the realization of this project.*)
- (5)' ...as the project was ended.

前章で収集した *lorsque*+VS の全 689 例を①～⑤に分類した結果、表 1 のような分布となった。

【表 1: *lorsque*+VS に対応する英語表現】

英語表現	①	②	③	④	⑤	計
例数	299	101	27	236	26	689
%	43%	15%	4%	34%	4%	100%

lorsque+VS に対応する英語表現の構造として最も多かったのが①であり、フランス語の主語の意味が英語でも主語で表されている例が 43% を占めた。その次に高かったのが④であり、節構造で

はなく、前置詞句によって *lorsque*+VS の部分が表現されている例が 34% となった。一方で *lorsque*+VS の S の内容が英語では目的語位置にある要素が担っていた例は 15% のみであった。

①②③に該当する例に関して、*lorsque*+VS が英語でも節構造で表されている場合、接続詞は *when* だけではなく、*where*、*as* が用いられている例も見られた。

(6) *Lorsque* seront visés les rapports d'autres organisations, ...

(*when will be aimed the reports of other organizations*)

(6)' *Where* the reports of other organizations are referred to, ...

(7) *Lorsque* surviennent des catastrophes naturelles, ...

(*when occur some catastrophe natural*)

(7)' Even *where* there are natural disasters ...

(8) ... *lorsque* se prennent les décisions qui engageront notre avenir commun.

(*when is taken the decisions that will engage our future common.*)

(8)' ... *as* decisions are taken that will affect our common future.

また、④に該当する英語では節構造ではなく前置詞句となっている場合、*in times of* ~、*in (case of)*、*with* ~ などの前置詞が用いられていた。

(9)(10) のように *lorsque* + VS の V の意味を表す単語がない場合と、(11) のように前置詞に続く名詞が V の意味内容を内包している場合があった。

(9) ..., *lorsque* surviennent des situations d'urgence, ...

(*when occur some situation of emergency*)

(9)' , ... *in cases of emergency* ...

(10) ... *lorsque* interviennent des externalités positives, ...

(*when intervene some externality positive*)

(10)' ... *with a positive externality*, ...

(11) ... *lorsque* a débuté le processus de transition économique, ...

(*when have started the process of transition economical*)

(11)' ... *at the beginning of the process of economic transition*, ...

同様な分析を *lorsque*+SV の例についても行ったところ、対応する英語表現の分布は表 2 の通りとなった。

【表 2: *lorsque*+SV に対応する英語表現】

英語表現	①	②	③	④	⑤	計
例数	510	49	0	69	61	689
%	74%	7%	0%	10%	9%	100%

χ^2 検定によると、表 2 の分布は表 1 の分布とは異なった ($\chi^2=205.579$, $df=4$, $p=.000$)。①を見ると、*lorsque* 節の主語が、英語表現でも *when* や *as* に導かれる従属節内の主語となって表れて

いる例が7割以上を占めていることが明らかになった。また⑤に該当した例では、lorsque+SVの主語に該当する表現が英語には見られない例が約1割であった。

また、lorsque+VSの高頻度語彙を調査したところ上位10位は表3のような結果となった。

【表3：lorsque+VSのVの高頻度語彙】

順位	生起回数 689例中	語彙 (英語)
1	59 (8.5%)	survenir (<i>occur</i>)
2	34 (4.9%)	prendre (<i>take</i>)
3	30 (4.4%)	venir (<i>come</i>)
4	27 (3.9%)	exister (<i>exist</i>), produire (<i>produce</i>)
6	23 (3.3%)	poser (<i>put</i>)
7	22 (3.2%)	examiner (<i>examine</i>)
8	21 (3.0%)	surgir (<i>emerge</i>)
9	18 (2.6%)	aborder (<i>approach</i>)
10	17 (2.5%)	présenter (<i>present</i>)

発生や出現を表す動詞である *survenir (occur)* や *surgir (emerge)* が倒置の例の中で多く用いられていることが分かる。一方、lorsque+SVのサンプル689例における動詞を調べたところ、高頻度語彙上位10位は表4の通りとなった。

【表4：lorsque+SVのVの高頻度語彙】

順位	生起回数 (689例中)	語彙 (英語)
1	104 (15.1%)	être (<i>be</i>)
2	19 (2.8%)	faire (<i>do</i>)
3	14 (2.0%)	pouvoir (<i>can, be able to</i>)
4	13 (1.9%)	prendre (<i>take</i>)
5	12 (1.7%)	avoir (<i>have</i>), examiner (<i>examine</i>)
7	10 (1.5%)	achever (<i>finish</i>), autoriser (<i>authorize</i>)
9	8 (1.2%)	décider (<i>decide</i>)
10	7 (1.0%)	atteindre (<i>reach</i>), demander (<i>ask</i>), prévoir (<i>forecast</i>)

共通して10位に入っている動詞は、prendre (*take*)と examiner (*examine*)のみである。

lorsque+VS中のVとして多かった上位3位の動詞を含む例について、対応する英語表現の分類ごとの分布を調べた結果は表5の通りである。

【表5：lorsque+VSの高頻度動詞とそれに対応する英語表現の分布】

英語表現	①	②	③	④	⑤	計
survenir (<i>occur</i>)	16 27%	4 7%	1 2%	37 63%	1 2%	59
prendre (<i>take</i>)	12 35%	4 12%	6 18%	12 35%	0 0%	34
venir (<i>come</i>)	6 21%	6 21%	6 21%	7 24%	4 14%	29

最も多かった *survenir (come)* の例について、対応する英語表現として最も頻度が高かったのは、④の前置詞句となっている例である。先に挙げた(4)(9)の例のように、in times of ~、in cases of ~のように前置詞句で表現されている例が約6割を占めている。しかし、prendre (*take*) の場合は、①と④のカテゴリーに当てはまる例が同数であった。さらに、venir (*come*) の例になると、①~⑤がそれぞれ大差なく表れていた。

lorsque+VSのVのうち、生起回数が1であった動詞の例(93例)について、対応する英語表現の分類(①~⑤)の分布を調査した結果、表6の通りとなった。

【表6：生起回数1のlorsque+VSに対応する英語表現の分布】

英語表現	①	②	③	④	⑤	計
例数、%	43 46%	18 19%	1 1%	26 28%	5 5%	93

さらに、コーパス OPUS2 に含まれるテキストの大半を EU の公文書が占めることから、ジャンルによる差異があるかを確かめるため、主に文学作品のテキストを素材としている Frantext を用いて lorsque+VS の例を収集し、172 例を得た。前例について動詞の高頻度語彙を調査した。OPUS2 のデータでも高頻度であった *survenir (occur)*、*surgir (emerge)*、*venir (come)* といった意味的に出現や開始を表す動詞が、共通して高頻度語彙となっていた。Frantext の高頻度語彙は、apparaître (*appear*) や commencer (*begin*)、éclater (*burst*) など意味的には出現や開始を表す語彙に集中している。

【表7：Frantextにおけるlorsque+VSのV高頻度語彙】

順位	生起回数 (172例中)	語彙 (英語)
1	15	venir (<i>come</i>)
2	8	apparaître (<i>appear</i>)
3	7	arriver (<i>arrive</i>), commencer (<i>begin</i>) retentir (<i>echo</i>)
6	6	paraître (<i>appear</i>)
7	5	naître (<i>be born</i>), survenir (<i>occur</i>)
9	4	éclater (<i>burst</i>), éteindre (<i>extinguish</i>) ouvrir (<i>open</i>) surgir (<i>emerge</i>)

4. 考察

以上の分析結果をもとに lorsque 節内の文体的倒置の現象について考察を行う。

まず英語表現との比較を通して、フランス語の倒置された主語が英語でも主語として表わされている例が、lorsque+VS のほうが lorsque+SV

の場合よりも少ないことが明らかになった。*lorsque*+VS に対応する英語表現としては、前置詞句で表されている例や、フランス語の語順のように主語に該当する要素が動詞の後ろに置かれる *there* 構文で表されている例も多いことから、フランス語の *lorsque*+VS は英語では様々な構造で言い換えが可能になっていることが明らかになった。

また、*lorsque* 節中の主語に当たる要素が英語で該当する表現がない例が、*lorsque*+VS では数例のみであったのに対し、*lorsque*+SV では約 1 割あった。このことから、*lorsque*+SV の主語は省略が可能である場合もあるが、*lorsque*+VS の主語は省略不可能で、必要不可欠な要素であるといえる。

さらに *lorsque*+VS の動詞の高頻度語彙を Frantext と比較した結果、*survenir* (*occur*) や *venir* (*come*) など出現や開始などを表す動詞が共通して倒置の高頻度動詞として挙げられた。OPUS2 の倒置の高頻度語彙には *produire* (*produce*) や *examiner* (*examine*) など、Frantext よりも幅広い意味の動詞が倒置に用いられていることが明らかになった

特に頻度が高かった *survenir* (*occur*) が用いられた例に関して英語表現の分布をみると、前置詞句が 6 割に上り、動詞の意味を表す要素が英語表現には含まれていない場合もあった。何かが「起きた」という動詞が担う情報よりも、むしろ「何が」起きたのかという主語が担う情報が重要と認められる場合に、フランス語では文体的倒置が用いられる傾向があると考えられる。

さらに、英語では分離構文で表されていた例が *lorsque*+SV には見られなかったが、*lorsque*+VS では 27 例あった。これには、フランス語の *lorsque* 節の主語が関係節や *de*+不定法を伴っている場合が含まれている。英語では分離構文として関係節や不定詞が動詞の後ろに置かれているのに対して、フランス語では文体的倒置を用いることによって主語+関係節が動詞の後ろに置かれるという傾向がうかがえる。

5. まとめ

本研究では、主に EU の公文書を含むパラレルコーパス OPUS2 を使用し、フランス語の *lorsque* (*when*) 節における文体的倒置の現象について、英語との比較分析を行った。その結果、フランス語の *lorsque*+VS の場合は *lorsque*+SV の場合よりも、対応する英語表現が前置詞句であるなど、統語構造が多様となっていることが明らかになった。さらに、OPUS2 と文学作品を対象としたコーパスである Frantext における文体的倒置に用いられる動詞を比較したところ、出現や開始を表す動詞は共通していたが、OPUS2 のほうがより意味的に広範な動詞が用いられていることが分かった。

今回は *lorsque* 節に限って分析したが、関係節や補文など他の従属節でも文体的倒置は頻繁に表れるため、それらに対してもパラレルコーパスを用いた分析を適用し、文体的倒置の性質をより明確にしていくことを今後の課題としたい。

参考文献

- [1] Guillemin-Flescher, J. (1981). *Syntaxe comparée du français et de l'anglais: problèmes de traduction*. Editions Ophrys.
- [2] Vinay, J. P., & Darbelnet, J. (1995). *Comparative stylistics of French and English: a methodology for translation* (Vol. 11). John Benjamins Publishing.
- [3] Wall, K. (1980). *L'inversion dans la subordonnée en français contemporain* (Doctoral dissertation, Acta Universitatis Upsaliensis).
- [4] Bonami, O., & Godard, D. (2001). Inversion du sujet, constituency et ordre des mots. *Cahier Jean-Claude Milner*, 117-174.
- [5] Lahousse, K. (2011). *Quand passent les cigognes. Le sujet nominal postverbal en français moderne*. Presses universitaires de Vincennes.

i OPUS: <http://opus.nlpl.eu/>

Europarl : <http://www.statmt.org/europarl/>

ii <https://www.sketchengine.co.uk/>

iii <http://www.frantext.fr/>

iv 主節における文体的倒置には、主語を排他的に解釈させる場合があるが、それを SV とした場合との意味的な違いについては明らかではない

(Lahousse 2011)。

v OPUS2 にはサブコーパスとして、MultiUN や OpenSubtitles2011 が含まれているが、本研究で収集したデータは主に MultiUN から抽出されたものである。MultiUN は EU の公文書をデータ化したコーパスである。MultiUN はパラレルコーパスであり、ある元言語から他言語に翻訳されたわけではないと考えられる。

vi 動詞の前に直接目的語代名詞 *le*, *la*, *les*, *leur* がある場合を検索する際、同形の冠詞と区別するために、*le*, *la*, *les*, *leur* の直後に動詞が続くという条件を追加した。

vii イタリアで表している英語は、直前のフランス語の例を、単語ごとに英語に逐語訳したものである。

viii 例文番号に「j」が付してあるものは、同番号のフランス語例文に対応する英語を表す。